

多様な社会のイクオリティー

昨年1年間滞在していたカナダ・カルガリー市には世界中から人々が集まり暮らしていた。人種、宗教も違えば、文化や習慣も異なる人達の集まりである。まだ英語が話せない人達もいる。すべてカナダ人であり、カルガリー市民である。

この多様な人々の子ども達の集まる小・中学校で差別のない教育を行う為にどのような対策をとっているのでしょうか。カルガリー市のカリキュラムディレクターは、すでにカリキュラムの中に性による差別を含めて差別は存在しない。従って個々の問題に対処して特にしていることはないと言う。「人種、宗教、性等、一つ一つを取り上げて研修はしておれない。だから肝心なことを一つ、すなわちイクオリティー（平等）という考えの根本を押さえておく。それだけである。」

「様々な違いに対して差別しないというイクオリティー感覚。この基礎となる一点が最も重要で、この基本を徹底することが教員研修においても最も効果的である。」と。同市の中学の教師をしている女性も「男女、宗教、文化等、分けて考えない。総ての差別のものは同じ、平等への強い意識さえあれば大丈夫。」と話していた。なんとも大まかなようだが、基本を押さえて総てに対処する。これが多様な国カナダで最も求められているのかもしれない。＜教育学科長 西岡正子＞